

名古屋学院大学大学院 経済経営研究科 経済学専攻（修士課程）

2026年度第I期入学試験（2026年2月7日実施）

理論経済学演習〔専門科目問題（小論文）〕

解答例

移民流入の瞬間には労働投入量のみが増加するため、一人当たり資本は不連続に低下し、資本の希薄化が生じる。これに伴い、一人当たり産出は低下する一方、労働量の増加によって総産出は増加する。また、資本労働比率の低下により労働の限界生産力が低下するため実質賃金率は低下し、資本の限界生産力が上昇するため利子率は上昇する。利子率の上昇は企業の投資インセンティブを高め、資本蓄積を加速させる。

その後の移行期では、人口成長率が移民流入前の水準に戻るため、資本労働比率は元の定常状態に向けて単調に収束する。この調整過程において、生産・消費・投資などの一人当たり変数は定常値へと戻るが、資本ストックや総産出は労働投入量の恒常的な増加を反映し、移民受け入れ前より高い軌道へ移行する。

以上より、一時的な移民受け入れは短期的には資本の希薄化と要素価格の調整を通じて一人当たり所得を低下させるものの、投資の増加によって資本蓄積が進み、長期的には一人当たりの生活水準は元の定常状態に回帰する。一方で、労働者数の恒常的な増加により、経済規模は移民前よりも常に大きな水準で成長し続ける。